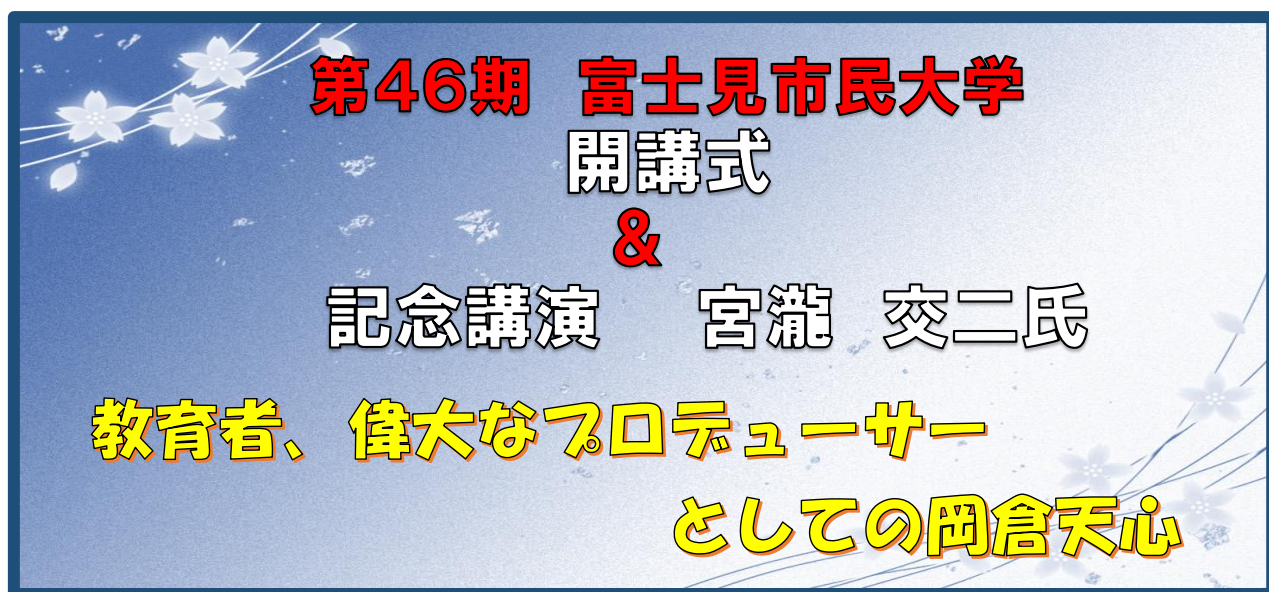




第46期富士見市民大学開講式・基調講演

第1部 開講式

開催日：令和5年6月10日（土）

開催時間：午前10時～11時40分

会場：鶴瀬コミュニティセンターホール

NPO法人富士見市民大学の令和5年の第46期の開講式は、6月4日（土）午前10時より三上監事の司会で、鶴瀬コミュニティセンターホールを会場にて開催された。

最初にNPO法人富士見市民大学理事長瀬戸篤より入学者に対し祝辞がありました。

最近チャットGTPが話題になっているが、子どもたちはコロナの自粛生活の中で自習を余儀なくされて可哀そうでした。また、肝心のコミュニケーション能力、人付き合いの力が落ちているのではと危惧しています。

市民大学での学びは、受講者同士が知り合い、仲良くなる、さらに学びを深めることを目指しています。

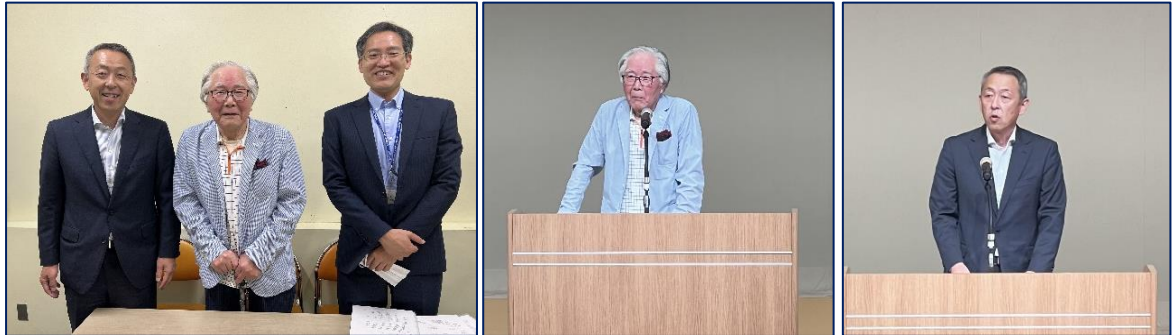
今期富士見市民大学では8講座、4公開講座が予定されていると講座の紹介があった。



続いて来賓の富士見市教育委員会山口武士教育長からも祝辞がありました。

コロナ禍による影響は大変大きく、子どもたちの身に沁みついた習慣は消えないとのその例として、子どもたちに、マスクをつけるかどうか判断を任せたところ、今年の卒業式では、体育館では9割、教室でも5割という結果を話された。

最後に、3年間コロナ禍の中で、市民大学の活動が休むことなく続けられたことへの理事長をはじめ理事の努力への謝意の言葉を頂きました。



最後に、理事・担当職員の紹介と合わせて、講座担当理事より8講座の講座内容についての紹介と案内がありました。



第2部 基調講演

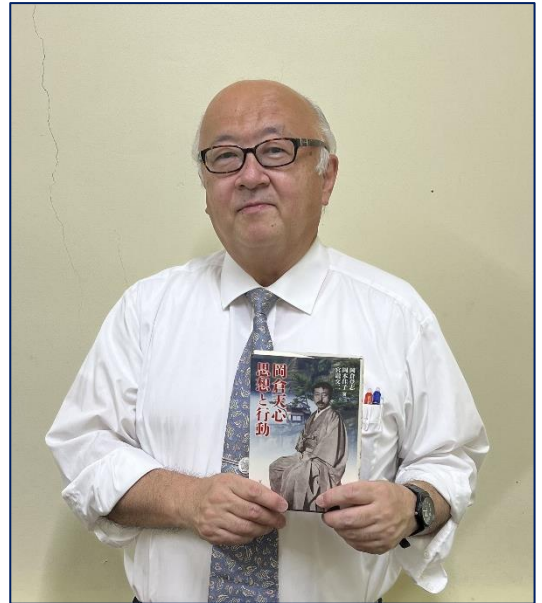
開催時間 13時30分～15時30分

演 題 「教育者、偉大なプロデューサーのとしての岡倉天心」

講 師 宮瀧 交二氏

大東文化大学教授・博士（学術）

司会の三上監事より丁寧な講師紹介に続き、瀬戸理事長より多くの文学者、評論家が岡倉天心を取り上げていること「美術教育のプロデューサー」と案内があった。



1. 映像視聴

紀伊国屋書店発行 ビデオ評伝シリーズ
No 33

岡倉天心：虚空は光にあふれ

学問と情熱、道教の君子、岡倉天心のダンディズム、アジアの巨人（評価の振幅）であるとの紹介

2. 岡倉天心略歴に基づく講義

『岡倉天心 思想と行動』（吉川光文堂）からの抜粋

- ・ 1862年生～1913年没（文久2・大正2年）
- ・ 1853年 黒船来航
- ・ 1862年12月26日、岡倉覚右衛門次男として横浜で生まれる。
幼名は覚三または角蔵
7歳で英語、その後漢籍、南画、漢詩、琴などを学ぶ。
- ・ 1978年（明治10年） 16歳
8月、東京大学3年在学時にお雇い教師として来日したフェノロサと出会う。数年にわたり通訳として親交し共に奈良、大阪、京都の古社寺を訪れる。
- ・ 1887年（明治20年） 25歳
欧米視察旅行にフェノロサと同行、東京美術学校の開校準備を担当。
- ・ 1889年（明治22年）
東京美術学校開校 フェノロサと日本画の伝統に近代化をもたらす。
- ・ 1890年に校長となる。 26歳
博物館学芸員に任じられる。後に帝国博物館館長に就任。
- ・ 1893年（明治26年） 31歳

帝国博物館の命で、中国（清）に美術調査旅行に出かける。

- ・ 1894年（明治27年） 32歳
日清戦争勃発。「美術教育施設ニ付意見」を作成。
- ・ 1898年（明治32年） 36歳
東京美術学校校長及び帝国博物館を辞職。
台東区谷中に日本美術院開院、機関紙「日本美術」を創刊。
- ・ 1901年（明治34年） 39歳
インドへ渡る、インドの詩人ゴダール等との交流、翌年にかけて仏跡をめぐる。古美術品の保護、雑誌「国華」を創刊。
- ・ 1903年（明治36年） 41歳
「東洋の理想」がロンドンのジョン・マレー社から出版。
- ・ 1904年（明治37年） 42歳
ボストン美術館の理事会で天心の就任が承認される。
日露戦争勃発。ニューヨークのイザベラ・S・ガードナーを訪問、以後親交を深める。
「日本の覚醒」をニューヨークのセンチュリー社より出版。
「東洋の理想」をニューヨークのダットン社から出版。
茨城県・五浦の別荘を拡張し、六角堂を建てる。
- ・ 1906年（明治39年） 44歳
京都・奈良などでボストン美術館の為の美術品を購入する。
以下購入点数
絵画 3,600点
工芸品 20,000点
その他 4,000点
- ・ 1911年にも京都で美術品を購入。
「茶の本」をニューヨークのフォックス・ダフィールド社から出版する。
- ・ 1911年～1912年 49歳～
ボストン美術館の命でヨーロッパに出張。ボストン美術館で講演活動。
東京・五浦を頻繁に往復。中国、インドに立ち寄り後ボストン勤務。
- ・ 1913年（大正2年） 50歳
体調悪化、急遽帰国、五浦で静養後、腎臓病がもとで赤倉山荘にて死去。

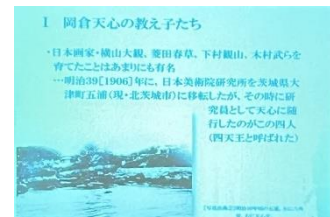
3. 講師の作成資料に基づく講演

（1）岡倉天心の教え子たち

日本画家の四天王といわれる横山大観、菱田春草、下村観山、木村武らを育てた。

1906年（明治39年）に日本美術院研究所を五浦に移転。

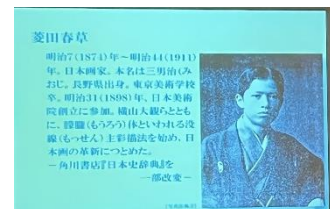
横山大観、菱田春草、下村観山、木村武ら4人は研究員として随行した



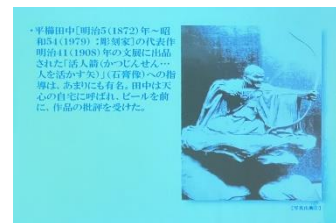
①横山大観の人と作品



②菱田春草は朦朧体といわれるもっせん主彩描法の作品。若くして亡くなる。

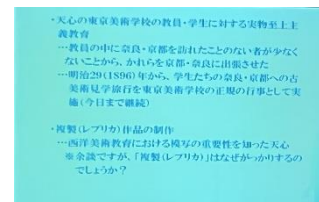


③平櫛田中の活人箭(かつじんせん、人を活かす矢)への指導で有名



④天心の実物至上主義について

現在も継続しているが、学生を京都・奈良に実物を見に行かせる。



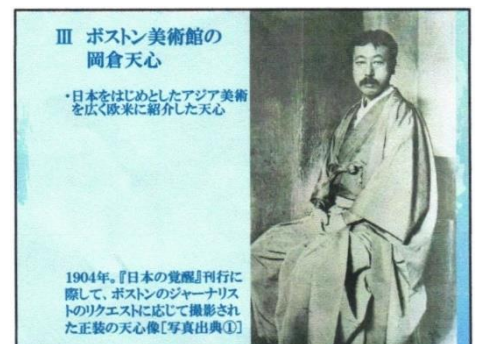
(2) 博物館プロデューサーとしての岡倉天心

①天心の国立の地方博物館構想[1897年(明治30年)]「美術館教育施設ニ付意見」(1894年)作成による。

特に「九州博物館の必要」を強調、古いものにヒントがあると主張した。

(3) ボストン美術館の岡倉天心

日本をはじめアジアの美術を広く欧米に紹介した。



講演終了後、中田正義鶴瀬公民館長より参加者への参加の礼と、講師への謝辞と富士見市民大学へ連携・支援の言葉を頂きました。



アンケート集計結果

1. 講演会について

項 目		満足	普通	不満足	合計	満足度
1	内容について	30	5	0	35	85.71%
2	講師について	30	4	1	35	85.71%
3	スタッフの対応について	22	11	0	33	66.67%
合 計		82	20	1	103	95.50%
満足度		79.61%				

不満について

- ・マイクボリュームが小さかった
- ・年表の映像の年代が違っていたこと。(1歳違います)。
- ・マスクを取ってお話頂いた方がよかったです
- ・マスクを付けてプレゼンしていたのでよく聞き取りにくい箇所があったので折角の話なので検討してほしい。

感想・ご意見

- ・昨年の内容より遙かによかったです
- ・天心について、名は知っていたがこれほどの秀才と驚きです

2. 来期以降の講座、講演会について、取り上げて欲しいテーマテーマや講師名などを記入下さい

- ・宮滝先生の他のテーマで。
- ・宮滝先生に“武蔵野”をテーマに
- ・近代・現代に関わっている政治家以外の人たち話を聞きたい

- ・ 関東特にこの周り、むさし野の話もでたし、南畑の事なども知りたい
- ・ 今後の日本の農業について・ と実際。田畑の減少と就労者の減について
- ・ Z世代の行動学
- ・ 中村元についての講演
- ・ 以前公開講演に来て頂いた本田宏先生の話をもう一度お願いしたい。
- ・ 徒然草 島内裕子（放送大学教授）

3. 本講演をどこでお知りになりましたか。

順位	項目	人 数	割合 (%)	前回
1	掲示板ポスター	10	29%	33%
2	市広報	10	29%	28%
3	市民大学からのお知らせ	12	35%	23%
4	お知り合いからのお誘い	1	3%	11%
5	その他（鶴瀬公民館 他）	1	3%	6%
合 計		34	100%	100%

4. 回答者の属性について

①性 別

項 目	男性	女性	他	合計
性 別	10	22	0	32
割合 (%)	31%	69%	0%	100%

前回 女性/男性 6 / 4

②年 齢

項 目	5 0 歳以下	5 1 ～ 6 0 歳	6 1 ～ 7 0 歳	7 1 歳異常	合計
年齢 (人)	0	0	8	25	33
割合 (%)	0%	0%	24%	76%	100%

③お住まいの地域

順位	地 域 名	人 数	割合 (%)	前回
1	鶴瀬・関沢 地 域	9	27%	43%
2	みずほ台 地 域	5	15%	12%
3	ふじみ野 地 域	9	27%	8%
4	上 沢 地 区	1	3%	6%
5	羽 沢 地 区	2	6%	6%
6	渡 戸 地 域	3	9%	5%
7	鶴 間 地 域	0	0%	4%
8	山 室 地 区	0	0%	4%
9	三 芳 町 地 区	3	9%	4%
10	水 谷 地 区	0	0%	3%
11	南 畑 地 域	0	0%	1%
12	諏 訪 地 区	0	0%	1%
13	都内	1	3%	4%
合 計		33	100%	100%

5. 富士見市民大学全体に関する要望など御座いましたらご記入ください。

- ・開講式にて それぞれの講座についてのご説明がありキチンと検討され講座を開かれているご苦労を知りました
- ・いつもお世話になり有り難うございました。
- ・初めて参加したが老人が目立った。老人支配の典型。若い人も参加できる様なプログラムに再構築すべき。
- ・金曜日と決まっているのか他の日もやらないのか

6. 当大学の受付・資料の印刷などのお手伝い又は企画運営の活動(担当理事として)に興味をお持ちの方、ご協力いただける方は、お名前・ご連絡先(電話)をご記入ください。

報告 辻 明 (理事)